

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 2007年8月4日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4671500090
法人名	医療法人 一桜会
事業所名	さくらのお家・よしだ
所在地	鹿児島市東佐多町269番2 (電話 099-245-5500)
評価機関名	特定非営利活動法人
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成19年7月27日

【情報提供票より】(19年5月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	16 人
利用定員数計	18 人
常勤	14 人
非常勤	2 人
常勤換算	

(2) 建物概要

建物構造	木造 平屋 造り
	1階建ての 1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,500 円	他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 5月31日現在

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 86 歳	最低	74 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉留クリニック 吉田温泉病院 西園歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは始良インターより車で約5分と交通の便のよい田園地域に位置し、周囲は豊かな自然環境に恵まれている。ホームの特徴としては、庭が広く建物は平屋で、居室やどの場所からでも360度の大自然のパノラマが座ったままで眺めることができ、四季の移り変わりをを感じる事ができる。居室が畳のため、落ち着いた居心地の良い場所となっている。また、母体が医療法人のため、病院との連携を密に図り、終末期に於いても利用者も家族も安心して過ごせる体制となっている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:要改善点は2項目あり、職員会議にて直ぐに報告・検討をして改善シートを作成し、1・運営理念の明示については改善している。2・市町村との関わりについては事業所はその必要性は理解しており、多忙で話し合うチャンスが十分に取れない市町村の担当者に、運営推進会議や他の機会を通して働きかけを継続している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者・管理者・職員共に、自己評価の意義は理解しており、昼休みを利用して2カ月かけて検討し評価している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:運営推進会議は2回開催し、1回目は推進会議の説明・運営報告・外部評価の報告をし、改善に向けての検討をしている。2回目は夏祭りに合わせての交流会にとどまり、議事録もなく、推進会議を十分に活用しているとは言いがたい。しかし、6月の会議にて隔月毎に推進会議を開催する計画を立て、内容についても検討中である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部)ホームの各所に相談窓口の案内を明示し、家族会を開催し意見を聞いたり、家族が意見・苦情をだしやすい雰囲気作りに配慮している。出てきた苦情については、職員会議で検討し対応して運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)自治会に加入しており、「いきいき・地域サロン」の催しに参加したり、公民館に講師を招いて講演会を開催したり、夏祭りに参加したり、ボランティアを受け入れたりして地域の人々との交流を活発に行なっている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は平成12年に、系列のホームが作成したものを引継いでいるが、職員全員で検討後再確認し、事業所の理念として決定したものであり、サブタイトルとして地域に向けての理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、申し送りやミーティング時に管理者・職員は、理念の再確認をし共有を図ると共に、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、「いきいき地域サロン」の催しや夏祭りに参加したり、また、公民館に講師を招いて講演会を開催するなど、地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員が評価の意義については理解しており、自己評価も昼休みを利用して意見を出し合い作成している。前回の外部評価も職員会議で検討をし改善シートを作成し、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2回開催しているが、会議の説明・報告・交流会にとどまり、サービスの向上にむけての意見の交換を十分に行っているとは言いがたい。	○	今年度からは偶数月に推進会議を開催する計画をたてているので、話し合いを通じて会議メンバーから率直な意見をもらい、それらをサービスの向上に活かすことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、連携の必要性を理解して意識を持って働き掛けてはいるが、市町村の担当者が多忙のため、サービスの質の向上に向けて話し合う機会は十分には取れていない。	○	推進会議に包括支援センターの職員の参加が出来るように決まったため、会議以外にも話し合う機会を持ち、サービスの質の向上に取り組むことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書と同時に利用者の近況報告(全体・個別)をしており、また、法人の広報誌にホーム便りを載せて送付している。金銭管理についても出納帳にて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内の各所に苦情窓口案内所を明示し、また、家族会を開催し意見を聞いたり、家族が相談・苦情等が言いやすい雰囲気作り心掛けています。出てきた意見については職員会議で検討し、改善に向けて取り組んでいます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前、家族より苦情が出たので、その後は運営者は法人内での異動は最小限に抑える努力をし、やむなく代わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は計画的に参加しており、法人内の年6回の内部研修も交代で参加している。研修記録も作成し、報告・伝達も実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、管理者・職員が県・市のグループホーム連絡協議会に加入し、地域の同業者と相互訪問等の交流を図り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者及び家族に見学してもらい、入居予定の居室を案内したり、職員や他の利用者そして場の雰囲気に馴染んでもらい、利用者・家族が納得してサービスが利用出来るよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者は人生の先輩であるという考えを共有しており、常に本人から学ぶという姿勢を持ちながら接しており、お互いに学んだり支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者・介護計画作成担当者が、センター方式のアセスメントを使い本人の希望や思いを確認している。困難な場合は、家族の意向の把握に努めシートに記録し、全職員で共有するよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び家族の意向を聞き、医師を含めた必要な関係者で話し合い、それぞれの意見やアイデアをだしあって介護計画を作成している。作成した計画は家族にも報告し、計画の共有を図っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に計画の見直しをし、また、状態の変化が生じた場合は、随時本人・家族・必要な関係者と話し合い計画の見直しを行い、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	本人・家族の状況に応じて通 院・送迎・墓参り・故郷帰り 等、必要な支援に対応して いる。また、医療連携体制を 活かして、医療処置を受けな がらの生活の継続・重度化 した場合や終末期の入院の回 避も支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大 切にし、納得が得られたかか りつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受け られるように支援している	入居前に各々の主治医を把握 し、本人や家族の希望するか かりつけ医となっている。通 院が困難な利用者には、定 期的に往診に来てもらう等 適切な医療を受けられるよ うに支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方 針の共有 重度化した場合や終末期の あり方について、できるだけ 早い段階から本人や家族等 ならびにかかりつけ医等と 繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	「重度化した場合における 対応に係る指針」があり、同 意書・手順書も作成してい る。また、医師を含めて職 員・看護師長・家族の連携 は十分に行い、全員で方針 を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバ シーを損ねるような言葉か けや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	管理者・職員共にプライバ シーの保護や個人情報の漏 洩防止の重要性については 理解しており、その対応を 徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優 先するのではなく、一人ひと りのペースを大切に、その日 をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	基本的には1日のおおまかな スケジュールはあるが、利用 者を中心にその日の体調や 気分・気候に配慮しながら、 個別性のある支援をして いる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と同じ食事を一緒にテーブルで食べており、準備や片付けも個人の出来る範囲でしている。食材も自分たちで育てた野菜などを利用し、会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日、順番についても本人の希望を取り入れている。また、入浴を嫌がる人にも気長に対応し、無理な場合は清拭している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人や家族より、生活歴や趣味を把握しており、さつま狂句・生け花・ドライブ等一人ひとりの生活歴や力を活かした支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの庭も広く、周囲も自然環境に恵まれているため、天気の良い日は日常的に散歩をしており、買い物やドライブ等の支援もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、利用者一人ひとりの外出の癖や傾向をつかんで対応しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署による防災訓練があり、避難マニュアルも作成している。また、夜間の火災を想定しての訓練を実施したり、避難場所についても近所の協力を得るよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成し、副菜については季節の食材や皆で育てた野菜等をとりいれて料理している。食事や水分の摂取量は把握し記録している。また、嚥下や咀嚼状態に応じて細かくしたり、ミキサー食にするなど支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の周囲を遮るものが何も無いため、どの場所でも自然採光に恵まれ、明るく静かである。玄関やテーブルには季節の花が生けてあり、居間からは外の風景が十分に楽しめ、季節を感じる事ができる。台所の横には皆で作った梅干し等の保存食も並べてあり、生活感を感じさせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はすべて畳で、それぞれの利用者の好みや馴染みの物(タンス・コタツ・仏壇・テーブル・イス等)の持ち込みが多く、個性があり、本人が居心地よく過ごす場所となっている。		